

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 17 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2017

課題番号：24320078

研究課題名(和文) 対馬宗家文書朝鮮語ハングル書簡類の研究

研究課題名(英文) A study of Hangul letters in Tsushima Souke document

研究代表者

岸田 文隆 (KISHIDA, Fumitaka)

大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・教授

研究者番号：30251870

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,500,000円

研究成果の概要(和文)：江戸期日朝間に往復した朝鮮語ハングル書簡は、従来8通のみが学界に知られていたが、2009年、2012年に対馬宗家文庫の一紙物の目録が上梓されるに及び、100通余りの新たな書簡類の存在が明らかとなった。これらの大半は、1811年の通信使易地行聘の交渉など外交の舞台裏に関するもので、当時日朝間で如何なる言語がやりとりされていたかを具体的に伝える好個の資料である。本研究では、これら新発見の朝鮮語ハングル書簡を解読し、翻字データベースを作成したほか、文献学的・言語学的検討を加えた。以上の成果をもとにして、資料写真・翻字・和訳・解説付きの研究書を近刊の予定である。

研究成果の概要(英文)：Although OSA Masanori(1978) introduced only 8 hangul letters in Tsushima Souke Bunko, it became clear that about 100 ones existed in there, by publication of Tsushimarekishiminzokushiryokan(2009, 2012), Catalogues of the Documents in Tsushima Souke Bunko. These letters are very valuable because they show us the real image of communication between Japan and Korea in these days. In this research we deciphered them, and created transliteration database. In addition, we made philological and linguistic study of them. Based on these results, we are to publish a book including photos, transliterations, Japanese translations, explanations of these letters.

研究分野：朝鮮語学

キーワード：対馬 宗家文書 ハングル書簡 小田幾五郎 朝鮮語通詞 倭学訳官 朝鮮通信使 易地行聘

1. 研究開始当初の背景

江戸から明治の初年にかけて対馬において朝鮮語の学習がおこなわれ、幾多の朝鮮語学書が編纂されたが、その一部が今に伝わる。これら朝鮮語学書は、朝鮮語史および日本語史の優れた資料として研究に大いに利用されてきたが、それら資料の性格を正確に把握するためには、当時日朝間の交通の現場で実際にどのような言語がやりとりされていたのかを把握しておく必要がある。ところで、日朝両国間でとりかわされた書簡や対話記録の現存するものは、ほとんどが漢文(真文)や和文で書かれており、朝鮮語で書かれたものは極めて少ない。とくにハングルで表記された資料は、長正統(1978)によって紹介されたわずか8通の倭学訳官のハングル書簡が知られているにすぎなかった。しかしながら、これらのハングル書簡は、その片々たる分量にも関わらず、当時の日朝間の交通の現場における朝鮮語の実態をつぶさに呈示する朝鮮語史上の重要資料として、学界の注目をあびてきた。これら8通のハングル書簡が洪允杓(1994)の近世朝鮮語資料一覧に著録されるなど、その資料的価値がみとめられてきたのである。

長正統(1978)によって8通のハングル書簡が学界に紹介されたことにより、おそらく対馬宗家文庫にはその他にもまだ学界に知られていないハングル書簡が存在するであろうということは容易に推測されたが、不幸にもその後資料の発掘は進展しなかった。それは、それらハングル書簡が対馬宗家文庫の4万点に及び一紙物資料の中に未整理のまま埋没していたため、閲覧調査が事実上不可能であったためである。

ところで、2009年に対馬宗家文庫の一紙物の目録(対馬歴史民俗資料館編(2009))さらに2012年にその追録(対馬歴史民俗資料館編(2012))が上梓されるにおよび、これら資料をめぐる状況は一変した。ながらく、調査が困難であった書簡類の閲覧が可能となったのである。研究代表者は一紙物目録の刊行と同時に早速調査を開始したが、その結果、今まで学界に存在の知られていなかった約百通のハングル書簡類が存在することが明らかとなった。それら新発見のハングル書簡類の内容を実見してみたところ、多くは長正統(1978)によって紹介された8通のハングル書簡に類似したものであり、同様の価値をみとめることができるものであった。すなわち、対馬の朝鮮語通詞として名高い小田幾五郎と朝鮮の倭学訳官との間でやりとりされた書簡類が大半を占めており、いわゆる通信使易地行聘の交渉など、1800年前後の外交の舞台裏の実際を伝えるものである。これらは、当時日朝間で如何なる言語がやりとりされていたかを如実に物語っており、質・量ともに近世朝鮮語および日朝関係史の一重要資料であることは疑いない。

引用文献

長正統(1978)「倭学訳官書簡よりみた易地行聘交渉」『史淵』115, pp.95-131. 九州大学文学部

対馬歴史民俗資料館編(2009)『対馬宗家文庫史料一紙物目録(1)~(3)』長崎県教育委員会

対馬歴史民俗資料館編(2012)『対馬宗家文庫史料絵図類等目録』長崎県教育委員会

洪允杓(1994)『近代国語研究()』太学社(韓国)

2. 研究の目的

本研究においては、これら新発見の朝鮮語ハングル書簡類につき、その文献学的・言語学的検討をおこない、解題・本文の翻字・和訳を作成する。具体的作業としては、資料本文を解読する、歴史資料(とくに対馬宗家文庫の日記類や記録類)との照合によりその成立過程を考証する、ハングル表記や文法的特徴について考察しその朝鮮語史上における価値を検討する、対馬において成立した朝鮮語学書類との照合により実際の言語のやりとりが朝鮮語学書類に如何に反映されているかを検討する、資料本文を翻字しデータベース化する、資料本文の和訳を作成する、等をおこなう。これらの検討・考察・作業をおこなった後、本研究終了後には、この資料を、この分野にたずさわる研究者一般が利用できる形で、ひろく学界に提供(資料の写真・本文翻字・和訳・解説付きの研究書を刊行)する。

3. 研究の方法

新発見の対馬宗家文庫朝鮮語ハングル書簡類の解読と文献学的検討(他の歴史資料との照合)および言語学的検討を実施する。また、この資料のデータベース・和訳を作成する。解読と言語学的検討は、定期的に大阪大学で研究討論会を開催し、メンバー全員で討議しながら進める。解読作業が終わった部分から、順次、データベース・和訳を作成する。文献学的検討は、歴史資料、とくに対馬宗家文庫の日記類や朝鮮通信使記録類との照合作業をおこなう。この作業は膨大であるが、現地(対馬など)に赴いて資料収集をおこないつつ照合作業を実施する。以上を総合し、本研究終了後に、資料の写真・本文翻字・和訳・解説付きの研究書を刊行する。

4. 研究成果

新発見の朝鮮語ハングル書簡全112通の解読をおこない、翻字データベースを作成するとともに文献学的検討を加えた。書簡本体に送受信者や発信日が記載されていないものも存在するが、小田幾五郎「御用書物控」、吉村橋左衛門「裁判記録」、「朝鮮通信使記録」、

「分類紀事大綱」などの宗家文書記録類との照合によって、それら書簡類の素性を同定した。また、言語学的検討を加え、書簡類の形式、敬語の使用状況、語彙の使用状況、音韻変化の反映の度合いなどについて分析し、それら書簡類が公的文書に近い特徴を示しており、もっぱら私信の特徴を示す従来知られていた近世期ハングル書簡とは異なる性格を有するものであることを明らかにした。以上の成果は、次項に示した論文・著書等で発表したほか、ハングル書簡類全112通につき写真・翻刻・和訳・解説を付した研究書を近刊の予定である(松原孝俊・岸田文隆編『朝鮮通信使易地聘礼交渉の舞台裏』九州大学出版会)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

岸田文隆(2017)「倭学訳官崔崔珮(伯玉)のハングル書簡よりみた易地行聘交渉」『韓国朝鮮文化研究：研究紀要』16, 102-85. 東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室、査読無

岸田文隆(2016)「対馬宗家文書ハングル書簡類について 今までの成果とこれからの課題 (原文韓国語)」、『語文学論叢』35, 1-19. 国民大学校語文学研究所(韓国) 査読無

岸田文隆(2015)「対馬宗家文書ハングル書簡類について：報告書の刊行を契機として」『朝鮮学報』237, 1-63. 朝鮮学会、査読無

岸田文隆(2015)「対馬宗家文書ハングル書簡類について(原文韓国語)」『韓国学研究論文集』4, 1-20. 中国文化大学韓国語文学系出版(台湾) 査読有

岸田文隆(2014)「対馬宗家文書朝鮮語ハングル書簡類の解読作業について」『国語史研究』18, 161-191. 国語史学会(韓国) 査読有

岸田文隆(2013)「韓国国会図書館所蔵「(秘書)朝鮮通言国字」の朝鮮語かな表記について」『訳学 訳学書』4, 47-82. 訳学書学会(韓国) 査読無

岸田文隆(2012)「朝鮮語対話書「惜陰談」・「和館問答」と戸田頼母「贅言試集」」, 李東哲・権宇編『日本語文化研究』第二輯上, 21-29. 延辺大学出版社(中国) 査読有

岸田文隆(2012)「『漂民対話』対話文例の来源についての再追跡」『訳学 訳学書』3,

107-127. 訳学書学会(韓国) 査読無

〔学会発表〕(計8件)

岸田文隆(2015.10.3)「対馬宗家文書ハングル書簡類について 報告書の刊行を契機として」第66回朝鮮学会大会、於天理大学9号館

岸田文隆(2015.9.15)「対馬宗家文書ハングル書簡類の発見と研究(原文韓国語)」韓国学中央研究院伝統韓国学研究センター第27回コロキウム、於韓国学中央研究院文衡館大会議室(韓国)

岸田文隆(2015.9.11)「対馬宗家文書ハングル書簡類について 今までの成果とこれからの課題 (原文韓国語)」対馬宗家文庫ハングル書簡国際学術大会、於国立ハングル博物館講堂(韓国)

岸田文隆(2015.6.13)「対馬宗家文書ハングル書簡類について(原文韓国語)」第四届西太平洋韓語教育与韓国学国際学術会議、於中国文化大学暎峯記念館(台湾)

岸田文隆(2014.3.16)「対馬宗家文書朝鮮語ハングル書簡類の解読作業について」国際訳学書学会、於北京大学(中国)

岸田文隆(2014.1.25)「対馬宗家文書朝鮮語ハングル書簡の資料的価値」対馬文書朝鮮書簡調査検討会・九州大学韓国研究センター研究会 韓国朝鮮語の姿 昨日と今日、於九州大学韓国研究センター

金周弼・岸田文隆(2012.10.6)「対馬島宗家文庫所蔵ハングル書簡類の性格と特徴」第63回朝鮮学会、於福岡大学(福岡県)

岸田文隆(2012.7.28)「韓国国会図書館所蔵「(秘書)朝鮮通言国字」の朝鮮語かな表記について」第4回訳学書学会国際学術会議、於徳成女子大学(韓国)

〔図書〕(計2件)

対馬歴史民俗資料館編(2015)『対馬宗家文書史料 朝鮮訳官発給ハングル書簡調査報告書』長崎県教育委員会、536(29 - 126; 131-286 の和訳部分; 389-396)

朴真完(2013)『「朝鮮資料」による中・近世語の再現』臨川書店、459

6. 研究組織

(1)研究代表者

岸田 文隆(KISHIDA, Fumitaka)

大阪大学・言語文化研究科・教授

研究者番号：30251870

(2)研究分担者

小西 敏夫 (KONISI, Tosio)
大阪大学・言語文化研究科・准教授
研究者番号：20289359

酒井 裕美 (SAKAI, Hiromi)
大阪大学・言語文化研究科・准教授
研究者番号：80547563

朴 真完 (PARK Jinwan)
京都産業大学・外国語学部・教授
研究者番号：90441203

許 秀美 (KYO, Sumi)
龍谷大学・文学部・講師
研究者番号：50612826

横山 恭子 (YOKOYAMA, Kyoko)
富山高等専門学校・一般教養科・助教
研究者番号：50759165